

奥出雲町議会構成が決まる

新議長に景山利則氏
副議長に石原武志氏

5月16日に令和5年第2回奥出雲町議会臨時会が開かれ、議員全員による投票で議長及び副議長が決まりました。議長には景山利則議員が、副議長には石原武志議員がそれぞれ選出されました。なお、常任委員会等の委員長には次の議員が就任されました。

- 【総務経済常任委員会】 糸原 壽之 議員
- 【教育福祉常任委員会】 川西 明徳 議員
- 【広報公聴常任委員会】 内田 裕紀 議員
- 【議会運営委員会】 大垣 照子 議員

島根リハビリテーション学院
新学院長の就任

島根リハビリテーション学院の新学院長の就任式が奥出雲スポーツセンターで6月1日に行われ、職員や学院生が出席しました。14年の永きにわたり、学院運営の改革と教育の充実に尽力された谷河精規学院長が退任されたことに伴い、新たに学院長として、島根大学医学部名誉教授である紫藤治学氏が就任されました。

紫藤学院長は、「優秀な理学療法士・作業療法士になるためには、プロとしての心構えが大切です。プロの心構えとは、理学療法士・作業療法士としての知識や技術のほかに、様々なことに関心を持ち、コミュニケーション能力や探求心などを育むことです。」と熱く語られました。

紫藤学院長には、学院の教育理念を引き継いで、学院の発展や学院生の指導にあたっていただきます。



紫藤治学院長

松崎百合子さん(鳥上)を
教育委員に任命

高橋美奈委員の任期満了に伴い、5月25日付けで松崎百合子さんが新たに教育委員に任命されました。「学校の統廃合などを控えているので、一町民として、多面的な協議ができた方がいいです。」と意気込みを話されました。



厚生労働大臣特別表彰受賞

白名里巳さん(三沢)
山本勝昭さん(三成)

令和4年11月末日をもって民生児童委員を退任された白名里巳さん、山本勝昭さんが、多年にわたってその職務に精励され、功績が顕著であるとして厚生労働大臣特別表彰を受賞されました。白名さんは平成13年12月から21年の永きに渡り、民生児童委員として地域福祉の推進にご尽力され、地区常任委員としても活躍いただく傍らで、ケーブルテレビを通じて民生児童委員活動の情報発信にも寄与いただきました。

山本さんは平成19年12月から15年間民生児童委員として、その間、老人福祉部長や地区常任委員を歴任し、平成28年12月からは民生児童委員協議会の会長として、委員相互の融和を図り、組織の強化にもご尽力されました。



白名 里巳さん(左)と山本 勝昭さん(右)

奥出雲町
小学校連合
体育大会



今年初の真夏日となった5月17日に、三成運動公園陸上競技場で奥出雲町小学校連合体育大会が開催されました。

町内全小学校の5年生以上が参加し、短・長距離走とリレーのトラック競技が行われました。

今回は、声を出しての応援が可能となり、各小学校の応援席からは、トラックを懸命に走る仲間を一杯励ます姿がありました。また、今年度で鳥上小学校が閉校となるため、町内10校での最後の大会となりました。

児童たちは、この日に向けて練習してきた成果を発揮し、ゴールを目指して、最後まで走り抜きました。



猛烈な暑さの中、懸命に走る児童の姿

仁多ライオンズクラブ認証55周年

仁多ライオンズクラブから
地桜製木製ベンチが
寄贈されました

仁多ライオンズクラブがライオンズ国際協会に認証されてから55年となりました。

これを記念して、5月14日、仁多ライオンズクラブは、さくらおろち湖展望広場に地桜製木製ベンチを4基寄贈されました。

同広場は、美しい景色を眺めることができるため、5年前から仁多ライオンズクラブが環境整備を行っています。

贈呈式の前に、同会員40名が、草刈りや既存のベンチのニスの塗り直し等の作業を行いました。

仁多ライオンズクラブ認証55周年記念大会の山本勝昭大会委員長は、「見晴らしのいい場所にベンチが設置でき嬉しいです。景色を見ながら、奉仕の精神を悟ってもらいたいです」と話されました。



寄贈された地桜製木製のベンチ

仁多郡遺族連合会役員会

仁多郡遺族連合会(会長・石原道夫)の役員会が、5月21日、カルチャープラザ仁多で開催されました。同連合会の会員数は511名で、国のために命を捧げた先人を慰めることや戦争のない国づくりへの協力をすることが主な活動となっています。

同役員会では、令和4年度の事業・決算報告や令和5年度の事業計画や予算が話し合われました。

また、現在の会員が高齢となつてきており、孫やひ孫世代にどのように引き継いでいくかが課題となっています。遺族会維持のため、次の世代へ協力の呼び掛けも必要であるとの認識を共有しました。



カルチャープラザ仁多で行われた役員会の様子

祝 布勢地区
中村若手会結成30年

布勢地区の中村自治会の有志でつくる「中村若手会」が、結成30周年を迎えました。これを記念して、6月4日、中村集会所で記念式典が行われました。平成5年に13名で結成した「中村若手会」は、夏の納涼祭での屋台運営、町外へ出た方々への暑中見舞いや年賀状の送付、休耕農地の除草作業、大晦日には神社で参拝者への接待等を行い、地域を盛り上げてきました。

式典では、子どもたちの思いを書いた作文の朗読がありました。集会所で行われた納涼祭やみんなで行った海、とんどさんがとても楽しかったと話し、式典に集まったみんなで思い出を振り返りました。

若手会の会長を務める陶山成一さんは、「若手会のモットーは『メンバーが楽しみながら計画し、実行に移す』こと。そして、子どもから大人までの地域のみんなが喜ぶことで、地域活性化に貢献することです。」と熱く語りました。



糸原町長(前列中央)と中村若手会の皆さん